

韓国愛憎

激変する隣国と私の30年

木村 幹著

1. 1990年代の著者と韓国

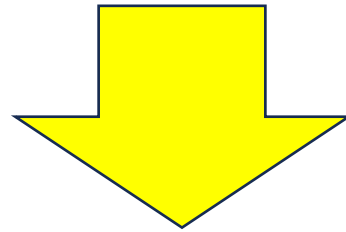
2. 2000年代の著者と韓国

3. 2010年代の韓国

4. 文在寅政権

前提（韓国の人々の日本の認識）

歴史認識問題、領土問題



日本への不満

冷戦期、政府は日韓関係への悪影響を懸念
→国民の不満を意図的に抑制

1. 1990年代の著者と韓国

a) 研究対象として韓国を選択

理由: 急速な民主化の成功

→ 発展途上国のためのヒントに

1. 1990年代の著者と韓国

b) 韓国留学の際の出来事

ア) 1992年大統領選挙

i) 演説場での候補者の力量

→ 権威主義的な政治からの変化の可能性



帰国後

愛媛大学での韓国語の講義

愛媛県内における韓国語案内表示の作成

1. 1990年代の著者と韓国

c) その後の韓国

ア) 旧朝鮮総督府庁舎の撤去

i) 金泳三政権による「歴史の見直し」

イ) 学生運動の衰退

原因: 韓国の経済発展

i) OECD加入、一人当たりGDP1万ドル突破

→ 人々の生活の向上

1. 1990年代の著者と韓国

d) アジア通貨危機の克服

ア) 急速な経済回復に成功

- i) 日本の経済的な重要性の低下
→ 日本への関心の低下

2. 2000年代の著者と韓国

a) 韓国併合再検討国際会議への参加

“1910年の韓国併合は合法か否か?”

合法論と違法論の2つにはっきり分離

合法性を今さら議論 = ナンセンス?

議論が平行線のまま 無理矢理終結

2. 2000年代の著者と韓国

b) 2002年サッカーW杯の日韓共催

ア) 両国が関係改善の機会と認識

→ 日韓関係が良好

イ) 著者は歴史認識問題等の噴出を懸念

2. 2000年代の著者と韓国

c)2003年”韓流ブーム”の到来

ア)「冬ソナブーム」「ヨン様ブーム」

→良好な日韓関係の継続

d)2005年“嫌韓現象”の発生

ア) 山野車輪著の「マンガ 嫌韓流」のヒット

多量な韓国情報が日本人を刺激

3. 2010年代の韓国

a) 韓国併合100周年

ア) 巧みに歴史認識問題を抑止
(日本への姿勢：一)

b) 慰安婦問題の判決

ア) 韓国政府の不作为憲法違反判決
→ 支持率の低下
(日本への姿勢：強硬)

3. 2010年代の韓国

c) 李明博が竹島(独島)に上陸

→ 日本への挑発

d) 日本天皇の韓国訪問

ア) 独立運動の犠牲者への謝罪を要求

謝罪なし = 「訪韓の必要なし」

イ) 日本人の対韓感情は悪化

3. 2010年代の韓国

e) 朴槿恵政権

ア) 親日政権なのか?

i) 日韓関係に妥協的施策なし

ii) 慰安婦問題において強硬な姿勢

イ) 日韓の歴史認識問題が支持率とは無関係

4. 文在寅政権

a) 文在寅政権誕生

ア) 著者の考え

i) 日韓問題への関心の低下

ii) 歴史認識問題が政治的問題から欠如

日韓関係が沈静化する可能性

4. 文在寅政権

b) レーダー照射問題

ア) 韓国の旗艦が海上自衛隊にレーダーを照射

日本：事実を公表し、激しく抗議

韓国：日本による威嚇行為と非難

イ) これまでの日韓関係からの変化

さいごに

- a) 日韓関係の出口の混迷
- b) コロナを原因の交流の途絶
- c) 互いの情報不足がさらなるフラストレーションに
- d) 日韓両国の相手への理解の解離が拡大→余裕なし

真の「**終わりの始まり**」か……………?